

「半島のじかん2013 in TOKYO」開催概要

国土交通省国土政策局
地方振興課半島振興室

国土交通省では、平成25年2月2・3日の2日間、全国半島振興市町村協議会の皆様をはじめ、関係自治体や活動団体の方々のご協力を得て、「半島のじかん2013 in TOKYO」（会場：3331アーツチョダ[東京都千代田区]）を開催しました。今年度は、「半島と都市の対話」をテーマに開催し、2日間を通じて延べ300名以上の方々にご来場いただきました。以下にその様子を簡単に紹介いたします。

●成果報告会

「半島のじかん2013」の開会に先立ち、平成24年度半島振興室調査事業の中で進められた各地の取組（10取組）の成果報告会が行われました。各地の代表者からは、今年度の活動概要、成果、今後の展望について報告がありました。

●オープニング・キーノートスピーチ

オープニングに引き続き、NPO法人共存の森ネットワーク理事長の澁澤寿一氏による「半島と都市がつながる新しい社会へ」と題したキーノートスピーチが行われました。澁澤氏からは、今は経済の成長や物質的な豊かさを過度に重視する価値観とは異なる価値観を作っていく必要が出てきている時代だ。そのためには、都市、農山漁村が個々に問題に対応するだけでは不十分で、双方の多様な主体が連携し共生する必要があるとのお話がありました。

●半島と都市とのつながりの深化に向けたセッション

セッション1では、半島内外の人が、ワールドカフェ形式（参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、時々他のテーブルとメンバーを入れ替えながら話し合い行うもの）により、半島と都市との新しいつながりとしてどのようなものが考えられ、どのようにつながりを作るのかについて話し合われました。

また、セッション4では、地域づくり活動に対して、企業を含む多様な主体からの共感と協働を得るためにはどのようにすべ

きかという点について、「虹の松原」の保全活動を行う佐賀県唐津市の団体と、CSR活動の一環としてその活動に関わっているアサヒビール（株）とが連携した事例をベースに、意見交換が行われました。



【写真1：ワールドカフェの様子】

●半島の魅力の発信に向けたセッション

セッション2では、会場の展示に御協力いただいたアートディレクター、デザイナー、写真家の皆さんの目を通した半島の魅力について語っていただきました。

また、セッション3では、各地域の代表から、会場に展示している自慢の一品を紹介いただき、その後、どのように地域資源を発信すれば人々の共感を引き印象に残るのか、伝えたいことが多くある場合にその中からどのような情報を残して伝えるべきかについて、参加者の間で活発な議論が行われました。



【写真2：会場の様子】

（参考）

半島のじかん2013での各セッションの登壇者等の詳細は以下のHPをご覧ください。
半島のじかん（URL）<http://www.rpi.co.jp/hanto/hantotime2013/>